

新聞を制作して家庭に配達するまでに必要な経費のうち、おおよそ半分は配達するための経費といわれる。新聞を大量に生産する印刷工場は集約され、それぞれの工場には最新の自動機械が投入されて効率が高まっているが、全国各地の家庭に配達するためには、あらゆる地域に多数の配達拠点を維持して、多数の人間を動員しなければならぬので効率が向上しないからである。

家庭電化製品に代表される量産の工業製品も、工場で組立てて出荷するまでの経費は販売価格の何割かという程度である。これも新聞と同様に、生産する工場は限定されているうえに、ロボットを導入するなど効率を向上するために最大の努力がなされているが、全国どこか世界の様々な地域の必要とする人々に販売するためには、多数の卸売組織や小売組織を維持しなければならないからである。

一次産業についても同様である。知床の荒海で漁師が苦勞して漁獲したサケやマスは一尾せいぜい百円という単位で取引されるが、多少の加工をして都会の商店にまで配達され店頭で陳列されると、その百倍以上の値段になる場合さえある。野菜にしても同様で、地方の農家が出荷した値段と、全国の都会の人々が購入する値段とは何倍、場合によっては十倍以上の格差がある。

このような状況は同一の製品を大量に生産して価格を低下させ、より広範な地域に流通させることによって市場を占有していくことが、さらに価格を低下させるという産業革命の原理がもたらしたものである。それは、あらゆる家庭に便利な家庭電化製品が普及させて生活水準を向上させるという利点もある一方で、広告の効果などによって不要な製品が社会に蔓延し、その結果としての大量廃棄という問題の原因ともなってきた。

この状況を打破する手段が出現してきた。第一はITであり、生産する企業と消費する個人を情報通信手段で直結することにより、途中に介入する流通過程を省略するという手段である。電子新聞は顕著な事例であるが、CDや書籍なども次第に電子流通が普及しつつある。さらに進展していけば、デル・コンピュータが実現して成功したような受注生産による流通にまで到達する。

第二の手段が「地産地消」といわれる流通範囲の限定という手段である。ある地域で生産された農業製品や工芸製品を広範な地域に流通させるのではなく、その地域の内部や周辺で消費するという仕組である。そうすれば複雑な流通過程を経由するために価格が何倍になることもなく、広範な流通のために発生する膨大なエネルギー消費や廃棄される無駄も排除することができるということになる。

しかし、より重要なことは安心を社会に提供できることである。昨年の騒動以来話題になっている危険な食品の流通や、虚偽の表示問題などは、大量生産・大量流通・大量消費という構造から派生した問題であり、もし地産地消によって、生産する人間と購入する人間が相互に身近な存在であれば回避されることになる。そして流通経路を省略することによる価格の大幅な低下も可能である。

地産地消は「身土不二」ともいわれる。身体を構成する食品と、その食品を生産する土地とは一体であることが理想という思想である。産業革命によって世界規模に拡大した大量消費社会が生活水準の向上をもたらした功績を否定する必要はないが、過度になった欠点を是正するために、現代社会の構造を是正することも必要である。そのための手段としてITは有効であり、産業革命と対比してIT革命といわれる所以である。